

とつほくPPP・PFI協会(風見正三会長)が事務局を務める東北PPP推進連絡協議会は17日、第15回新春特別講演会を仙台市青葉区の東北学院大学土樋キャンパス・ホワイ記念館ホールで開いた。東北の産学官から150人が参加。

「対流促進型国土形成めざす東北の広域連携・公民連携を探る」をテーマに東北経済産業局、東北農政局、東北地方整備局の各局長らが登壇し産業政策や官民連携の取り組みを報告した。

冒頭、風見会長は「本講演会が東北を盛り上げ、安

経済産業局、農政局、整備局の3局長 広域・公民連携を語る 東北PPP推進連絡協講演会



佐竹局長

定した持続可能な社会を実現していく一助になってほしい」と語った。協会のこれまでの歩みと活動方針、東北でのPPP/PFIの現状と展望を共有した。

講演で佐竹佳典東北経済産業局長は、東北が直面する課題に人口減少を挙げ

「賃金や待遇を求める多くの若者が首都圏などに流出している」と危機感を表明した。雇用や投資の受け皿になる産業団地の整備計画が東北地域の計24団地、約550鈔で進行していると報告。「高付加価値な成長分野への投資を促し、地域をけん引する中堅企業を育てることが急務だ」と述べた。

永井春信東北農政局長は、農業関係者の高齢化や担い手不足の進行で「10年後には土地改良区の半数で活動継続が困難になる」と窮状を訴えた。基幹的施設の保全管理に民間事業者の創意工夫を活用する可能性を検討しており、官民連携



永井局長

での新たな管理手法の構築を視野に入れる。「農業の持続的発展には多くの課題があるが、安全で良質な食料供給の維持へ連携していきたい」と述べた。

西村拓東北整備局長は、東北が抱える▽広大な面積▽急速な人口減少・少子化▽激甚災害の頻発の三つの課題と向き合う上で官民連携の重要性を強調した。



西村局長

道路ネットワーク整備や流域治水などを解説。4縦貫7横断の道路ネットワークが農業、工業、観光に果たしている役割などを挙げ「横軸のミッシングリンク解消や暫定2車線区間の強化を推進する」と語った。

内閣府の鈴木貴典PPP/PFI推進室審議官の基調講演もあった。